

# 2017年度 自己点検・評価【商学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-1	<b>商学研究科の理念</b>		変更の有無
	<p>商学研究科では、1951年の商学部開設の2年後(1953年)に修士課程を開設し、さらに1961年には博士課程を増設した。商学研究科では、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野において、伝統的な研究領域に新しいアプローチを導入し、学際的な分野において新たな研究課題や解決策の構築を行ってきた。また、企業を取り巻く環境が急激に変化するなかで、現代の経済・社会や個々の企業が抱える諸問題を受けとめ、それらの根底にある理論や原理を研究・教育の課題としている。そこで、個々の研究者がこのような新しい任務に取り組み、伝統の継承と新たな領域への挑戦を積極的に行い、研究のより一層の高度化を計ると同時に、成果を教育に反映する。これらを通じて、スクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を具現化した「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」の輩出を図ることを教育理念とする。</p>		変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
A-2	<b>商学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b>	<b>商学研究科の目的(Webサイト上)</b>	変更の有無
	<p>経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野において、スクールモットーである“Mastery for Service”(奉仕のための練達)を具現化するために「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」を輩出する。そのため5年一貫の「研究職コース」と2年間の「専門学識コース」において、高度の専門性と豊かな人間性を備え、理論的基盤のある人間の養成を目指す。</p>	<p>近年の経済社会の変革と進展のスピードは著しく、企業等の組織運営にあってもテクノロジーの急速な進歩や社会変革に対応する能力が問われている。そこで要求されるのは高度の論理的思考能力と分析力である。従って、21世紀には理系に傾斜した技術的専門家だけでなく、組織運営を深く洞察する能力を有する人材が必要になると考えられており、社会科学、とくに商学に精通した理論的基盤のある高度専門家の育成が重要と考えられる。そのため、企業経済環境に関する独創的な研究によって早期の課程博士授与をめざす前期課程・後期課程5年一貫による「研究職コース」と、深い理論的基盤と分析力を有する職業人を養成するための前期課程2年による「専門学識コース」を設ける。</p>	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	<b>めざす学生像</b>		変更の有無
	<p>スクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を具現化した組織運営に関して高い分析能力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人</p>		変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	<b>学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)</b>		変更の有無
	<p>前期課程では、研究職コース学生に対しては、博士論文執筆のための研究能力の基盤を養うことに主眼を置き、博士論文の部分的・中間的作品として修士論文を位置づけている。そのため、主分野に特化するのではなく、主分野以外に必要なと考えられる分野についての履修を促して、商学に関する幅広い基盤を得させることを目的とするため、学位として修士(商学)を授与する。その上で、後期課程において独創的な理論研究を行って博士論文を提出することによって、博士(商学)の学位を授与する。これに対して専門学識コースにおいては、前期課程において専門性を高めるため、主分野に特化して、理論的な思考力・分析力を2年間で完結的に養うことに主眼を置き、その集大成として修士論文を位置づけている。したがって、学位は特化した主分野を明記し、修士(経営学)、修士(会計学)、修士(マーケティング)、修士(ファイナンス)、修士(ビジネス情報)、修士(国際ビジネス)を授与する。</p>		変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

# 2017年度 自己点検・評価【商学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「商学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 商学研究科の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「商学研究科の目的(Webサイト上)」は、A-2「商学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「商学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「商学研究科の目的(Webサイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会にて検証し作成された答申を研究科委員会で報告。変更の場合は大学院執行部会で審議し、毎年3月までに研究科委員会で審議している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月~3月
	検証エビデンス	研究科委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	研究科委員長より大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会にて検証を諮問。大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会は、各種データ等を通じて検証作業をおこなっている。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会答申 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) 今後見直す予定である。(見直し計画: ) その他 ( )
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

# 2017年度 自己点検・評価【商学研究科】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 研究者の養成	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 「研究職コース」においては、前期課程・後期課程5年一貫制のコースを通じて、高等教育機関等における研究者にとどまらず、民間のシンクタンクをはじめとした幅広い分野での活躍を想定した高度な専門性と豊かな人間性を備え、独創的な理論研究能力を有する課程博士を授与するにふさわしい研究者の養成を目標とする。	
目標2	(タイトル) ビジネスリーダー等の養成	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 「専門学識コース」においては、前期課程2年間のコースを通じて、企業にとどまらず官公庁、NPOなど幅広い分野での活躍を想定した実務現象の解明の基盤となる理論を修得した人材ならびに高度の専門的学識を備えたビジネスリーダーの養成を目標とする。	

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	☑はい □いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	☑はい □いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	☑はい □いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証し作成された答申を研究科委員会で報告。変更の場合は大学院執行部会で審議し、毎年3月までに研究科委員会で審議している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月～3月
	検証エビデンス	研究科委員会議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	研究科委員長より大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会に検証を諮問。大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会は、各種データ等を通じて検証作業をおこなっている。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他 ( )                 </div>
	判断根拠	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会答申
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-4 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
「研究職コース」および「専門学識コース」ともに、前期課程1年の段階で、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野から指導教授の所属する分野を「主分野」として選択する。そして、前期課程において、大学院教員による少人数での講義科目と、主分野の指導教授による演習指導を通じて、研究職コースにあっては博士学位論文作成に至る中間成果として、専門学識コースにあっては2年間の研究活動の集大成として修士論文の作成に取り組む。 後期課程においては前期課程に引き続き博士学位論文の完成を目指し、指導教授を中心とした博士論文指導委員会の指導を受けながら、3年の課程内での博士学位取得、遅くとも後期課程進学後5年以内の博士学位取得に取り組む。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証し作成された答申を研究科委員会で報告。変更の場合は大学院執行部会で審議し、毎年3月までに研究科委員会で審議している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月～3月
	検証エビデンス	研究科委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)</span>
検証プロセス	検証方法(どのように)	研究科委員長より大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証を諮問。大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会は、各種データ等を通じて検証作業をおこなっている。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。  <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 100px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他 ( )                     </div>
	判断根拠	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会答申
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-5	<b>学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)</b>	変更の有無
	商学研究科は、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野において、スクールモットーである“Mastery for Service”(奉仕のための練達)を具現化するために「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」を輩出することを教育上の目的としている。そのための5年一貫の「研究職コース」と2年間の「専門学識コース」において、高度の専門性と豊かな人間性を備え、理論的基盤のある人間の育成を目指す。したがって、この趣旨を理解し、向上心を持ち、さまざまな適性を有す、多様で幅広い学生たちを受け入れることを基本とする。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

**A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認** チェック欄

【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれか)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証し作成された答申を研究科委員会で報告。変更の場合は大学院執行部会で審議し、毎年3月までに研究科委員会で審議し、全学入試委員会で承認。
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月～3月
	検証エビデンス	研究科委員会議事録

前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)</span>
-----------------------	--

検証プロセス	検証方法(どのように)	研究科委員長より大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証を諮問。大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会は、各種データ等を通じて検証作業をおこなっている。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。  <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)                     </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画: )                     </div> <div> <input type="checkbox"/>その他 ( )                     </div> </div>
	判断根拠	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会答申

周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (大学院入試要項)
---------	---

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
学生が研究活動に専念し、その志や夢を実現できるよう、指導教員、商学研究科および学内関連部署の連携を図り、修学支援、生活支援および進路支援に取り組む。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
修学支援	指導教員による個別対応を中心としつつ、商学研究科として情報収集および学内関連組織(学生支援機構、教務機構など)との連携にあたる。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
生活支援	商学研究科として情報収集および学内関連組織(学生支援機構、教務機構など)との連携にあたる。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
進路支援	商学研究科として情報収集およびキャリア・センターとの連携にあたる。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性及び検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     (下記のことが明らかであることに留意する。)                      &lt;修学支援&gt;                      ・留年者及び休・退学者の状況把握と対応                      ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施                      ・障がい学生に対する修学支援の実施                      ・奨学金等の経済的支援の実施                      &lt;生活支援&gt;                      ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内                      ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み                 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証し作成された答申を研究科委員会で報告。変更の場合は大学院執行部会で審議し、毎年3月までに研究科委員会で審議している。
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月~3月
	検証エビデンス	研究科委員会議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	研究科委員長より大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会で検証を諮問。大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会は、各種データ等を通じて検証作業をおこなっている。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会答申 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) 今後見直す予定である。(見直し計画: ) その他 ( )
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(研究科委員会、執行部会および事務室MTGにて共有)	

# 2017年度 自己点検・評価【商学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

A-7

<b>教員像</b>		変更の有無
商学研究科の一員として、組織運営に関して高い分析能力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人の輩出(教育面)、専門領域を中心とする学術研究の発展(研究面)または商学研究科の持続的発展(組織運営面)に誇りと情熱をもって取り組む教員		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
無しの場合どのように設定するか?	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	
<b>教員組織の編制方針</b>		変更の有無
カリキュラムに基づく組織的な教育・研究を遂行するために必要な教員組織を編成するために、教員の研究領域および教育・研究・組織運営に関する経験・能力を最優先事項としつつ、構成員の年齢、性別、国籍、クリスチャニティなどの多様性を確保することにも留意する。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での議論を経て、随時研究科委員会にて審議・承認をおこなっている。
	決定・判断時期(いつ)	随時
	検証エビデンス	研究科委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った( 随時 ) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	教員組織の編制等に基づき、大学院執行部会の提案を研究科委員会において審議・承認している。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	研究科委員会議事録 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) 今後見直す予定である。(見直し計画: ) その他 ( )
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	



# 2017年度 自己点検・評価【商学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

責任者	商学研究科委員長	作成部局	商学研究科
-----	----------	------	-------

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 検証プロセスにおける「判断根拠」の記入漏れが散見されます。学部の委員会等では何をもとに検証したのか、するのか、明確にしておくことが求められます。どんなデータをもとに判断するのかは方針によって異なると思います。
- ・ A-6 学生支援に関する方針は、学生の目につく履修心得等にも掲載されることが期待されますが、まずは修学、生活、進路の支援について、具体的に記述することが望まれます。(A)
- ・ 適切な自己評価と自己点検が行われており、評価できます。(C)
- ・ 適切な自己評価がなされています。評価できます。(G)
- ・ 適切性の検証が実施されており、評価できます。(H)
- ・ A-1-A-7まで適切な自己評価がされており、評価できます。(I)